圓道照大居士。 年廿三。駒込吉祥寺に葬り、法號は覺峰院了 廿六日大和守と敗め、九月十日江戸に卒、享

大聖寺郡侯第五代前田利道の六男。七日市侯 八代前田利見の後を嬰ぐ。通稱爲五郎・大學・

的田利以

婚し、文化十三年二月九日歿。享年五十一。 某、七代前田利尙の女。天明七年十二月朔日 〇正室

大和守·宗啓·鶴心齋。法號閑松院。傳別出。

十代 前田利和 计 前田利和

知判物を受け、十一月廿二日江戸に卒、享年 七日入部、天保十年三月六日徳川家慶から領 月十一日從五位下大和守に叙任、七年十一月 戶に生まれ、享和二年正月廿七日利以の嗣子 だもの)。母は清露院。寛政三年正月十六日江 は利理の七男で、同姓淡路守孝武の後を襲い 初名松之助・隼人。 父は前田播潛守武宣(武官 照大居士。 四十九。長學寺に葬り、法號は碧禪院寒月殿 となり、文化五年十一月八日家督相綴、十二

の正室

保元年四月十六日入與、明治元年十月二日歿、 (二)某、陸奥七戸侯南部播磨守信隣の女。天 日歿。法號は惠照院圓明淨智大姊。 化十年八月十一日入與、文政十二年六月廿五 享年六十二。法號は貞德院歌室秀詠大姊。 (一)某、出羽龜田侯岩城伊豫守隆恕の女。文

保九年閏四月六日利和の嗣子となり、十一 初名錞八郎。父は富山侯前田利幹、母は側室 **眞堺院。文政六年正月九日江戸に生まれ、天** 十一代 前田利豁 年

> は松裔院睡巖覺翁大居士。 郎と稱し、十二月十六日從五位下大和守に叙 二月二日家督相顧、三月廿三日元服して孫八 が、八月二日之を僻し、十年八月十六日東京 日版籍を奉還して七日市番知事を命ぜられた 家定より領知判物を受け、明治二年六月廿三 任、十四年十二月廿四日丹後守と敗め、弘化 に卒、享年五十四。駒込吉祥寺に葬り、法號 元年六月廿五日入部、安政二年三月六日德川

〇正室

辭大姊o 東京に歿、享年五十三。法號は綠操院貴明協 四年十一月某日入與、明治十七年五月十四日 **世子。出羽船田侯岩城伊豫守隆萬の女。弘化**

十二代 前田利昭

從五位に叙し、四年七月十五日廢藩によりて **閑月院清歐昭詠大居士。** 職を発ぜられ、廿九年一月三日從四位を以て 闘を受けて七日市藩知事に任ぜられ、廿五日 年九月十八日江戸に生まれ、明治元年十一月 初名保丸。利豁の嫡男、母は綠操院。嘉永三 卒、享年四十八。駒込吉祥寺に弾り、法號は 十五日元服して孫八郎と稱し、二年八月二日

〇正室

直堅・直躬・直方・直簽・直時・直良・直會・直信 鈸。酒井忠恒の女。明治三年三月十八日入與、 の子 利政から出で、直之を 初祖とし、直作・ 十二。法號は昭月院清室貞春大姊。 に春子とし、大正五年四月三十日歿、享年六 相綴いだが、直鍪は家督を受けなかつた。 系―加賀潞の老臣八家の一で、その系は利家 四年十一月名を容と攺め、十七年七月八日更 マヘダウヂ前田氏(加賀勝臣)(一)世

> 尺、南側七十間二尺、北側五十四間三尺と見 (11) 邸第一前田直之の邸は高岡町にあつた。 後直信の闘子直行の時、明治三十三年五月特 都祖の分脈たるを以て種々の特典があつた。 延寶金澤園に、前田三左衛門前口四十七間五 に華族に列せられ、男爵を授けられた。 **祿直之以後一萬五十石、直堅以後一萬千石。**

後之を召上げられ、更に宮腰町端で賜はり、 は延寶金澤剛に載せた三社町の下邸である。 十一日附なるは萬治二年なるべく、その位置 右二、所被下候條被相渡、共外は上り候間、 泉水・築山有之處、並二十四五間四方之屋敷、 定書普請會所の部に「前田三左衛門殿下屋敷 ら、その頃既にかの地に住んでゐたものであ 門佐へ入り、高岡町へ引取り給ふり』とあるか える。この邸地を賜はつた年暦は詳かでない **謝取り可被申。』とある。この文樹の亥十二月** 郎左衛門の門へ引入り、嬰づたひに富田右衛 らう。是より世々相襲いでこの地に居た。 世人土佐の家中と呼んだが、廢藩の際家中の 時、『肥後殿(直之)は 何れも 引包み、半田五 が、三壺配に、寛永七年六月前田直之喧嘩の (三)下屋敷―前田直之の下屋敷は、十二册御

マヘダエモン 前田右衞門

加賀藩臣。

父

世 新に會し、その子孝の時三十三年五月特に華 正・孝貞・孝行・孝査・孝昌・孝友・孝本・孝中・孝 族に列せられ、男母を授けられた。 系―加賀藩の老臣八家の一で、長種・直知・直 (11) 即第一延寶金澤圖に、金澤城尾坂下西角 三千百石奥力知)に及んだ。孝敬の時明治維 石(内三千百石與力知)、多い時は二萬千石(内 敬十一代相繼ぎ、その領知少き時は一萬八千 名を止め、醒き井町と稱することになつた。 マヘダウヂ 前田氏(加賀藩臣)(一)世

> 維新後その地内を横ぎつて一町を設け、それ び前田備前の邸を併せ、廣大な屋敷になつた。 祖對馬守長種・二代美作直知・三代對馬直正・ のことである。後更に西隣なる滞の御貸家及 るに及び、孝貞がこの所に來住したものと見 四代 佐渡孝貞が 相襲いで 小松城代で あつた を梅本町と名づけたの え、その對馬と稱するは向佐渡にならぬ以前 が、寛永十六年前田利常の小松城を莵裘とす に前田對馬邸を記載する。この前田氏は、

土師宇遲の男菅原古人から初めてある。後人 の假作であららっ 册。前田利家以前の系闘で、天穂日命の商 マヘダウヂコダイケイズ 前田氏古代系圖

寛永五年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。 は三郎四郎。前田利家に仕へて三百石を領し、 主歴世の史質を編年的に排列したもので、 マヘダカジョウ 前田家乘 九册。加賀藩 杏

力 マヘダケイジ 前田利太^o 前田慶次 ↓マヘダトシタ

立等の編纂に係るo

歳で歿したことが知られる。 和刈布に蟄居し、慶長十年十一月九日七十三 残したものである。之によつて慶次は晩年大 を附線の臣野崎八左衛門知通がその子孫に書 田利久の養嗣子慶次郎利卓(又は利太)の生涯 マヘダケイジデン 前田慶次傅 册。

前田家の位牌所としたが、廢蕃の後神葬祭に 部では 徴四寺・天徳院の 兩寺を 兩刹と稱し、 た。十年五月九日・十日又郊外野田山にある 敗め、明治七年七月十二日兩刹の嬢堂を毀つ マヘダケイハイショ 前田家位牌所 加賀